

2018 年 4 月 12 日

○ 4月定例所長会見における発電所長挨拶内容

○ 所長の設楽でございます。

○ 福島第一原子力発電所の事故から、7年1ヶ月が経過いたしました。今もなお、福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、大変なご迷惑とご心配をおかけしておりますことを、あらためまして心よりお詫び申し上げます。

○ 本日、私からは3点お話しをさせていただきます。

○ まず始めに、当発電所6号機、7号機における建物・構築物等の液状化対策を含む耐震強化工事の検討状況についてです。

これまでも、ガスタービン発電機やフィルターベントの基礎部分の耐震強化工事など、対応方針が見えてきたものについてはお示ししておりますが、その他にも、軽油タンクの基礎やサービス建屋、大物搬入口など、今後、対策工事を行う可能性のある建物・構築物等がいくつか確認されております。

引き続き、詳細設計を進めるとともに、現場の工事にしっかりと取り組み、工事の進捗については、地域の皆さまへの丁寧な情報発信に努めてまいります。

○ 次に、新潟本社行動計画についてです。

先月30日に、地域の皆さまとともに歩み続ける地元本位の経営の基本姿勢をお示しする新潟本社行動計画「まもる・そなえる・こたえる」を公表しました。

この行動計画の具体的な取り組みの一環として、「まもる・そなえる・こたえる」オフィスを新たに柏崎市内に開設いたしました。

このオフィスには、これまで新潟市内を拠点としていた、防災や

避難支援業務を専門とする社員が常駐するとともに、当発電所をはじめ新潟県内で地域対応業務にあたる社員がサテライトオフィスとして利用することで、地域の皆さまのご要望やご意見などの「声」を、より近くでお伺いする拠点として活用してまいります。

当発電所としても、このオフィスを最大限活用しながら、地域の皆さまとの対話の機会を増やし、皆さまからいただいた「声」を発電所の運営に反映していくことで、信頼いただける発電所を目指してまいりたいと考えております。

- 最後に、柏崎市、刈羽村におけるコミュニケーションブースの開催についてです。

既にご案内の通り、当発電所では、3月末から5月末までの期間で、柏崎市内のコミュニティセンターや刈羽村内の集会場、計19カ所において「東京電力コミュニケーションブース」を開催することとしております。

柏崎市と刈羽村については、昨年末に6号機、7号機の原子炉設置変更許可をいただいたことを踏まえ、本年1月に地域説明会を開催しております。よりきめ細やかな対話の機会を設けるため、コミュニケーションブースという形で、皆さまのお住まいになっている地域に赴くとともにイベントの要素も盛り込み、気軽に足を運んでいただけるようなしつらえとすることといたしました。

これまでに計4カ所で実施しており、お子様連れのご家族などを中心に約280名の方にご来場いただいております。

来場された皆さまからは、「今回のように子供連れで原子力のことを知ることができるのは良い」「ヴァーチャル映像と社員からの説明を聞いて、事故後の対策がしっかりとられていると思った」などのご意見をいただきました。

今後開催する各会場においても、一人でも多くの方々にお越しいただき、発電所の状況等をわかりやすくご紹介するとともに、地域の皆さまのご不安や疑問におこたえしてまいりたいと考えておりま

す。

○ 本日、私からは以上です。

以 上